

福王寺だより

今年もオホーツクは雪が少なく寒い日々でありました。オミクロンが猛威を振るう中ではありませんが、お互いが思いやって過ごしている環境が整いつつあり、私達も少し強くなつたなど感じているこの頃です。

しかしながら、ストレスが掛かる日々でありますので、「ボーッと」する時間を意識して作って体を緩めてあげましょう。

春に向かって行くのは気持ちが良いですね。前を向いて、歩みましょう。

おしゃか様の「遺言」

お釈迦様の御命日（入滅）は二月十五日です。高野山では夜の0時頃から、お参りをはじめ、次の日の昼まで、四座講式というお釈迦様をお称える歌を備えます。

お釈迦様のの教えは多岐に渡りますが、臨終に際して残された言葉が有名です。

弟子の阿難尊者が「お釈迦様、あなたが去られた後はどうして生きていったらよいのでしょうか？ 今まであなたを導きとして生きてきたのに…」と問いかけます。

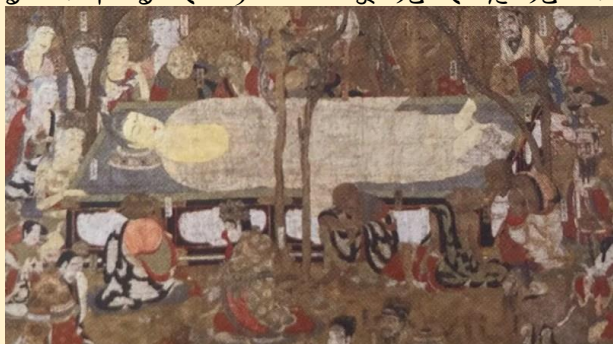
するとお釈迦様は、「阿難よ、言ってきたのではないか、生まれたものは必ず滅する、諸行無常なのだ。これからは、あなた自身と、私の教えを灯火として生きていきなさい。けつして怠ることはないのですよ。」と言われました。

「自灯明・法灯明」という教えです。

幸せの形は人それぞれになります。こうだといった絶対的な幸せはありません。

それでも私達は、他人の芝が青く見え、羨ましい、憎たらしい、人と比べてその中に、幸せを見つけないとします。

しかし、いくら競つても、優位になつても、上には上があるし、自分自身で幸せを感じなければ、いつまでも見つける



ことはないのです。

ですから、自らを灯火として、「人生をどう生きていきたいか」。

「どんな人間でありたいか」を考えましょう。という事を言っているのだと思います。

そして仏教の教え、「法」にそのヒントを見出し生きていきましょう。さらに私達はついつい怠けてしまうので、「精進していきましょうね！」という教えがお釈迦様の最後の言葉です。

生まれ、老い、病となり、亡くなつていく（生老病死）中で、いろいろな悩み、葛藤が生まれて私達は生きています。

そういつた中でも、「こういう人でありたい」という願い、灯火を持って生きて、感謝し、幸せを感じる力を養い、明るい人生を歩んでいきたいですね。

合掌



沙羅双樹（夏椿）

行事のご案内

「春彼岸会・正御影供」

三月二十一日 午前十時

於 津別町福王寺

三月十八日

午後一時三十分

於 北見別院

「春のお彼岸」、「弘法大師正御影供」のお参りです。

お大師様、ご先祖様への感謝を込め、皆様の幸せを祈りましょう。

北見別院では、右記の日程、「彼岸入り」にお参り致します。ご都合で津別のお寺に来られない方は、北見別院にてお参りください。

維持費納入のお願い

毎年三月のお彼岸の案内とご一緒に、お寺の維持費のお願いをしております。

お寺の運営は、皆様の維持費、また会場の使用料によるものであります。

別紙の会計書の通り、皆様の維持費はお寺の運営の為に使わせて頂いております。納骨の管理費も含まれておりますので、ご理解を頂き、一万五千元以上、お納めいただきますようお願い申し上げます。

地方の方には振り込み用紙を同封させて頂いておりますので、協力頂けましたら幸いです。世話人さんがおりますところは、帳簿に会計書がついておりますので、ご確認ください。

寺院 活動報告

節分 星まつり ご祈禱

厄払いや、商売繁盛など祈願といえ、**「福王寺」**といわれるくらいのお寺でありたいと思います。ご本尊様に祈りを捧げ、皆様の幸せを祈念いたしました。

詳しくは



令和五年、弘法大師生誕

一二五〇年記念に、「四国

八十八箇所巡礼」します。

令和五年三月末か四月頭に、「四国八十八箇所と高野山の巡礼」を企画します。

詳細は追って連絡しますが、巡礼の期間は二週間、金額はおよそ三十七万円位です。お賽銭や納経料を含めると四十万円程の経費がかかります。

とはいえ、一生で縁がないと中々巡拝できません、思いきってご参加、ご修行頂けますと良い体験となる事と思っております。この機会に是非ご参加ください。

